

# 会議録

会議の名称	令和2年度第1回川越市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和2年10月7日(水) 午後2時00分 開会 ・ 午後4時30分 閉会
開催場所	環境プラザ(つばさ館) 3階 研修室
議長(会長) 氏名 *敬称略	仮議長:新井 正司 議長:青木 亮(会長)
出席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	青木亮(会長)、佐野勝正(副会長) 川目武彦、今野英子、川口啓介、中原秀文、吉野郁恵、高橋剛、小ノ澤哲也、 山崎宏史、新井正司、加藤榮壽、安藤敏子、荒井康博、町田明美、横山三枝子、 小池均、正木一弘 の各委員(18名)
欠席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	なし
事務局職員 氏名(職名)	桑原善行(上下水道局長) 【財務課】 高木康行(参事)、矢野雄一(副課長)、馬橋洋(副主幹) 【給水サービス課】 原雄二(課長) 【事業計画課】 小林武(参事)、駒井和久(副課長)、石塚直子(主査) 【水道課】 眞野和幸(課長) 【下水道課】 前島清孝(上下水道局副局長)、谷部正彦(副課長) 【上下水道管理センター】 石戸祐仁(所長) 【総務企画課】 内田真(上下水道局副局長)、福田英一(副課長)、高梨義久(主査) 児玉陽介(主任)、小林泰貴(主事)
傍聴人(人数)	1名
会議次第	別紙のとおり

配布資料

(事前に配布した資料)

- 資料1 川越市上下水道事業の概要／令和元年度決算及び令和2年度予算
- 川越市上下水道事業経営審議会条例
- 川越市附属機関等の会議の公開に関する実施基準
- 川越市上下水道事業経営審議会の傍聴に関する要領

(当日の配布資料)

- 会議次第
- 川越市上下水道事業経営審議会委員名簿
- 川越市上下水道ビジョン（冊子）
- 川越市上下水道事業経営戦略（冊子）
- 令和元年度水道事業年報（冊子）
- 令和元年度下水道事業年報（冊子）

議事の経過	
発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
上下水道 事業管理者 事務局	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 委員紹介</p> <p>事務局より、委員18名全員が出席しており、出席者が過半数に達しているため、川越市上下水道事業経営審議会条例第5条第2項に基づき、会議が成立している旨の報告が併せてなされた。</p>
局長	<p>4 職員紹介</p> <p>5 議事</p> <p>(1) 会長及び副会長の選出</p> <p>新井正司委員が仮議長となり、指名推薦の方法で青木亮委員が会長に推薦され、各委員に諮ったところ、異議がなかったため、会長に決定した。</p>
会長	<p>挨拶（青木会長）</p> <p>指名推薦の方法で佐野勝正委員が副会長に推薦され、各委員に諮ったところ、異議がなかったため、副会長に決定した。</p>
副会長	<p>挨拶（佐野副会長）</p> <p><b>【傍聴希望者1名が入室】</b></p>
事務局	<p>(2) 川越市上下水道事業の概要</p> <p>[会議録の公開について了承を得たのち、資料1に基づき説明]</p>
委員	<p>水道事業の人口普及率が99.9%ということですが、日本は水道が100%行き渡っていると思っていたので、川越市において、0.1%の人に水道が普及されていないということに驚きましたが、どのような事情によるものでしょうか。</p>
事務局	<p>なかには、まだ井戸を使ってらっしゃる方もおりますので、100%になっていない状況にあります。</p>

委員	<p>下水道についてですが、市街化区域が 100%整備されていないという説明がありましたが、未整備地域について、なぜ今までそのような地域が残ってきたのでしょうか。</p>
事務局	<p>市街化区域は基本的には 100%完了していますが、南田島には、田が農地転用された際に道路後退をし、道路整備をするという地域ルールが定められた地区が一部あります。こちらについては、農業を一生懸命やられている土地が多いので、道路後退が未だに進んでいません。当該地区については、道路整備に合わせて下水道を整備するという約束があるため、100%の整備率には至っていない状況です。</p>
委員	<p>生産緑地という形では、道路後退しようと思っても、分筆など自分で費用をかけなくてはならないという事情もあり、道路後退は難しい側面があると思います。また、南田島には、住宅などができると排水を水路に放流するところもありますが、中には 1 年中水が溜まり、草刈りなどの管理が難しい水路もあります。下水道を早く整備していただいて、なるべく下水で処理していただかないと、このような状況がずっと続くのではないかと、という印象を持っています。</p> <p>他に、下水道の有収率が 65.7%ということで、かなり低いというイメージを持っていますが、これについては、全部不明水が原因ということでしょうか。例えば、合流式では雨水が当然入ってくると思いますが、そういった合流式の影響はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>合流式の場合は、雨水相当量の水が当然入ってきますので、それについては埼玉県と調整のうえ、差し引いてもらっています。分流式の場合は、本来汚水の専用管ですので、雨水は入らない想定ですが、整備してから年数が経過していたり、田が多い低地部分では、常時浸水といって、雨が降ると下水道管の深さより地下水位が上昇し、下水道管の接続部分やマンホールの継ぎ手箇所から不明水が浸入してくる状況が多くあります。</p>
委員	<p>例えば、下水道に勝手に繋いだりすることもあると思いますが、そのような状況についてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>先ほどご説明したのは、いわゆる常時浸入水というものです。率でいうと、不明水のうち約 7 割が常時浸入水で、約 3 割が雨天時浸入水といい、宅地内などの雨どいや道路上の雨水桝などの下水道への誤接続によるものです。不明水が多い地区では、宅地を 1 軒 1 軒回らせていただいて、宅地内調査を行わせてもらったりしているところですが、なかなか全てを改善するには至っていない、という状況です。</p>

委員	<p>水道についてですが、今まで川越市で断水したことはあったでしょうか。東日本大震災の時、計画停電があったかと思いますが、基本的には水道など公共的なものには停電の影響はなかったかと思いますが、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>川越市は幸い、大地震による長期的な断水はないと思います。ただ、ゲリラ豪雨によって、突然局地的に雷雨が発生し、これによって電力会社が停電状態に陥ることが、上下水道局としては心配しているところです。当然、予備電源などのバックアップ体制は持っていますが、雨雲レーダーを注視しながら、断水にならないよう、浄水場で監視しているのが現状です。</p>
委員	<p>2点確認させていただきたいのですが、1点目は、資料9ページの水道事業について、給水人口は微増していますが、有収水量は平成27年度から平成30年度までほぼ変わらなかったものが、令和元年度は40万m<sup>3</sup>ほど減少していますが、何か理由はあるのでしょうか。</p> <p>2点目は、資料15ページの公共下水道事業について、下水道への接続率、水洗化率の低下が課題として挙げられていますが、何か理由はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>有収水量の低下については、考えられるのが台風19号による災害によって減免した水量や、広く広範囲で被害があったので、清掃に係る水を大量に使用したことなどが、前年度と比べて落ち込んでいる理由の一つだと考えています。</p> <p>水洗化率が年々上がっていない傾向について、基本的には下水道が新たに整備された地区については、下水道に接続していただくことになっています。従前より下水道が整備されている地区については、接続していただいている数量は伸びていますが、新たに下水道を整備した地区については、例えば既存の浄化槽を使っている方が、経済的な理由や不便を感じない等の理由から、なかなか接続率が上がらず、全体として極端には上がってこないという状況になっています。</p>
委員	<p>資料9ページの総配水量のところで、新しい生活様式等による影響と記載されていますが、新しい生活様式の中で、懸念されるようなことがあれば教えていただきたいと思います。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症に伴い、在宅によるリモートワークなどが増加してきていると思います。それにより、個人の使用水量は増加傾向にありますが、それとは逆に、大口の企業や工場などの使用水量が減少するようなことが起こりますと、料金収入に非常に大きな影響を与えるため、新しい生活様式による影響も、今後は考慮していかなくてはいけないと考え</p>

	<p>ています。</p>
委員	<p>川越市の水道水は県水が90%、地下水が10%ということですが、市内中心部では井戸水を使っているからおいしい水だと聞いたことがあります。私は高階在住ですが、高階は県水がほとんどで荒川の水を飲んでいるだけ、という話を聞いたのですが、この記載は、皆さん平均して県水90%、地下水10%ということでしょうか。</p>
事務局	<p>地下水を汲む時間帯は、朝夕の炊事、洗濯、お風呂など市民の方が多くの水を使う時間帯に無人の浄水場を稼働させており、稼働時は水道水が若干冷たく感じることもあるかと思えます。</p> <p>水道事業年報の26ページの上段に配水量の浄水場別の構成比が図で記載されています。入間川から東側の地区ですと、仙波浄水場、郭町浄水場、新宿浄水場、今福浄水場、伊佐沼浄水場で汲み上げた地下水と、中福受水場の県水を混ぜ合わせた状態で、配水している状況です。</p>
委員	<p>時間帯によっては、地下水がきちんと口に入るということでしょうか。</p>
事務局	<p>そのとおりです。</p>
委員	<p>資料7ページや12ページに、管の耐震化率について記載されています。これは何年かけて目標立てをして、耐震化率を上げていくということになっていますが、最近は発注工事が落札されなかったり、入札が不調になるケースがかなりあるように見受けられますが、現状どのような状況なのか確認させていただければと思います。</p>
事務局	<p>今年度発注した水道関連の工事では、不調になったものが4件、2度不調になったものが3件あります。現在、今後に向けて、いろいろな業者の事情等を聞き、どのように発注すれば良いのか検討しながら、新たに発注を進めていこうとしています。</p>
委員	<p>かなりの入札で不調が出ているので、そのあたりよく調査したほうが良いと思います。他市を見ると、川越市より、もう少し値段的な部分で利益が出るような状況になっています。設計価格を見ると、業者的には手を出しにくい状況にまで来ているかと思えますので、一度よく調査してみてください。</p>
委員	<p>資料13ページの汚水処理方式として、雨樋からの浸透ますが記載されています。地下水に還していくこの浸透ますの設置について、川越市は補</p>

	<p>助金を出していますが、それに対してどの位の地下水に還元できると推察しているのでしょうか。その水量について教えてください。</p>
事務局	<p>雨水対策施設設置補助の実績は年々低下している状況ですが、年間で20基程度に設置補助をさせていただいています。具体的にこの位の水量を還元できるという資料はありませんが、基本的には降った雨が一気に流れ出さず、下水道に負担がかからない対策として行っているものになります。</p>
委員	<p>それに続いてですが、最近、私の周りを見ていても、土の部分がコンクリートで整備されるところがすごく多くて、大規模工場などの駐車場もほとんどがコンクリート化されています。地下水はすぐには枯渇するものではないと思いますが、雨水で流すだけではなく、浸透させていく対策も考えていただけるとありがたいな、と思っています。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>今回のコロナ禍によって、水道の基本使用料を2箇月徴収しなかったと先ほどお聞きしましたが、大体どの位の減収になったのでしょうか。</p>
事務局	<p>概ねですけども、1億2,600万円程度です。</p>
委員	<p>－意見なし－</p>
議長	<p>そうしましたら、議事(2)を終了としまして、ここで一旦、新型コロナウイルス対策の関係で、10分間の休憩を挟みたいと思います。そうしましたら、午後3時35分から再開したいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
	<p>－ 休 憩 －</p>
議長	<p>時間になりましたので、会議を再開させていただきたいと思います。</p>
事務局	<p><b>(3) 令和元年度決算及び令和2年度予算</b> [資料1に基づき説明]</p>
委員	<p>「その他未処分利益剰余金変動額」(※令和元年度決算)について、こちらは水道事業会計の方にだけ4億円計上されていて、公共下水道事業会計の方にはこちらの項目が見当たりませんが、この内容は何に当たるのか教えてください。</p>
事務局	<p>こちらについては、令和元年度の決算にあたり、資本的収支の不足額が</p>

	<p>生じたため、減債積立金と建設改良積立金という積立金から各 2 億円を資金的収支に充てています。積立金を充てた場合、その金額については決算上では「その他未処分利益剰余金変動額」という項目に、2 億円・2 億円の計 4 億円が計上される形になります。</p> <p>一方、公共下水道事業会計については、同様に資金的収支で不足額が生じていますが、こちらについては、先ほど申し上げた減債積立金と建設改良積立金の取り崩しを行わずに、別の内部留保資金で補填を行いましたので、「その他未処分利益剰余金変動額」に金額が計上されていない形となっています。</p>
委員	<p>今ご説明のあった積立金は、もともとは水道事業会計でできた剰余金でしょうか。それとも、他の会計からの剰余金でしょうか。</p>
事務局	<p>それぞれの会計で減債積立金と建設改良積立金があります。</p>
委員	<p>次に、公共下水道事業会計には「他会計補助金」（※令和元年度決算）という項目が出てきており、こちらもかなりの金額となっていますので、こちらについてもご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>こちらは、一般会計から雨水関係の繰入金をいただいています。繰入金には、基準内の繰入金と基準外の繰入金がありますが、基準内の繰入金については「他会計負担金」という形で、基準外の繰入金については「他会計補助金」という形で一般会計から繰入金をいただいております、そちらの金額になります。</p>
委員	<p>もう 1 点ですが、決算の資金的収支や「未処分利益剰余金」に出てきている数字と、予算に出ている数字に違いがあるのは、予算を立てた段階では、決算が出ていないため、数字が乖離しているという認識でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>お話にありましたとおり、予算については、ある程度見込みで計算していますので、数字の方は変わってきます。</p>
委員	<p>水道事業会計の給水収益が、令和元年度は 9,500 万円落ち込んでいますが、水道事業年報の損益計算書を見ると、平成 27 年度から平成 30 年度まで、ほとんど給水収益は変わってきていないと思いますが、落ち込んだ大きな原因は何かあるのでしょうか。また、令和 2 年度の見込みはどう見ているのか教えてください。</p>
事務局	<p>令和元年度は、7 月頃日照不足が続いた影響ですとか、東日本において、</p>

	<p>7月の梅雨明けに伴う気温の低さを記録したこと等の影響に加え、広範囲に及ぶ台風19号の被災者に対する減免等の要因があり、有収水量が落ち込んだものとみています。</p> <p>また、予算の関係ですが、こちらの方は、過去数年の平均値等を参考にしており、ここ数年給水収益は下落傾向ですので、この減少幅になった計算です。</p>
委員	<p>公共下水道事業会計で平成30年度決算と令和元年度決算を見ると、平成30年度は1億8,100万円の未処分利益剰余金があるのに対して、令和元年度は1,500万円強となっており、この推移でいくと赤字に転落するという危惧はないのでしょうか。</p>
事務局	<p>今ご指摘いただいた件については、我々の方でも危惧しているところではあります。原因については、ここで台風などの異常気象があり、雨が非常に多くて、去年も降雨が前年よりもすごく多い状況でした。先ほど、有収率のお話がありましたが、使用料の対象とならない浸入雨水についてもお金をお支払いしているような状況です。</p> <p>そのような状況の中で、本当にまだこれからですが、赤字にならないような努力をどのようにできるのか、今後よく検討していかなくてはいけない、と認識しているところではあります。</p>
副会長	<p>予算や決算の開示で、少しお願いがあります。まず、予算の金額が過去の収入などの実態と違ってきています。例えば、下水道事業年報の58、59ページの令和元年度決算額では、収入は60億2,500万円位（下水道事業収益）ですが、令和2年度予算額は62億8,200万円と乖離が生じています。予算を増やしている場合には、特別に増やしている理由がないといけません。実質的には、過去に60億円位の事業収益しか出ていません。予算を作る時に、前年度の実績が出ていないので作り難いという事情は重々わかりますが、単純に前年度比較でこれだけ増やしたらいいということではなく、過去のトレンド等を見て見直すよう、検討していただきたいと思えます。</p> <p>次に、決算については、決算書の開示だけではなく、今回こういう対策をしたので、決算がこのようになりました、という説明をしてほしいと思えます。そうすることで、例えば収入が足りないとか修繕が足りないとか見えるようなところが出てくるので、いろいろな意味で川越市の上下水道の課題に繋がってくると思えます。</p> <p>以上のことについて、少しご検討いただければと思います。</p>
事務局	<p>わかりました。検討させていただきます。</p>

委員	内部留保資金について、例えば企業であれば、定期の積み立てが重なって、これが出てくる形になるかと思いますが、この内部留保資金というのは、今までの利益の積み上がりでできているということでしょうか。また、その金額はどのくらいあるのでしょうか。
事務局	水道事業会計につきましては、35億8,831万5,010円、公共下水道事業会計につきましては、45億5,419万6,357円です。
委員	資本的収支の赤字が、毎年かなりの金額になるとと思いますが、これからずっとこういう傾向が続いて、内部留保資金がなくなった場合をどのように考えていますか。
事務局	資本的収入と資本的支出の不足については、ある意味、この制度の構造的な部分で不足額が生じるような状態になっています。この不足額を埋める手段として、内部留保資金を充てていくことになりますが、この内部留保資金の大きな財源として、毎年度の減価償却費相当分や収益的収支の純利益を次年度以降、充てていくこととなりますので、適正な事業規模を維持していけば、内部留保資金の枯渇にはなかなか至らないのではないかと考えています。
議長	昨年度、経営戦略の策定で、少しそのあたりの議論をしていたかと思います。下水道は、10年の長期計画でもなんとかいくかなと、水道はそのあと更新が入ってくるので、少し対応が必要と議論した記憶があります。昨年度、台風の被害などで、水道は想定外に収入が減ったようですが、今のところの予定としては、経営戦略の予想と大きく違ってないというか、次年度以降で調整をしていけば、それほど大きな再検討はしなくても大丈夫という理解でよろしいでしょうか。
事務局	実は、その辺も含めまして、内部で検討していく必要があると感じているところではあります。
議長	次回以降、もし検討が進んで、ある程度明らかにできるようでしたら、よろしくお願いします。
委員	先ほどの質問に関連しますが、資本的収支に関して、構造的にマイナスになってしまいます、というお話があったかと思いますが、概括的で構いませんので、詳しく説明していただけませんか。
事務局	資本的収入の主な財源としまして、1番大きいものは企業債の借り入れになります。料金収入といった大きなものは収益的収支の収入に入っ

	まっています。企業債の借入額よりも、建設改良費などの資本的支出の額の方がどうしても大きくなりますので、結果として、資本的収支の差し引きとして、マイナスが生じてしまう、ということになります。
委員	昨年度、川越市上下水道事業経営戦略を策定したということですが、今年度はその初年度に当たるかと思ひまして、今回の説明の中で、経営戦略と照らし合わせて、この予算をそこに重点的に充てたとか、こういうことを始めたとか、そういう全体的な1年目としてのプランはあるのでしょうか。
事務局	経営戦略を策定して、今年度が1年目ですので、そういった経営戦略を見越した部分というのは、来年度以降反映させていくこととしています。
委員	ということは、令和2年度の予算額には、あまり反映していないということでしょうか。
事務局	そのとおりです。
	<b>6 その他</b>
議長	「6 その他」に移らせていただきます。委員の皆様、全体を通じて何かご意見、ご質問はございますか。ないようでしたら、引き続き事務局よりお願いします。
事務局	[次回審議会のスケジュールや委員報酬に係る手続き等について事務局から説明]
議長	これもちまして議長の職を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。
事務局	続きまして、閉会の言葉を佐野副会長よりお願いいたします。
副会長	閉会の言葉（佐野副会長）
	<b>7 閉会</b>